

令和6年度第1回役員会議事録

日 時 令和6年4月24日（水）14時30分～15時23分

場 所 事務局棟4階学長応接室

出席者 日詰学長

塩尻、川田、森田、大場、川村の各理事

陪席者 佐藤副学長、鈴木、河島の各監事、林、近藤、山口、秋山の各部長、依藤次長

I 議事録の確認

令和5年度第11回役員会（令和6年3月29日開催）の議事録（案）、及び令和5年度臨時役員会（令和6年3月29日開催）の議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

III 報告事項

1. 第4期中期目標期間における令和5年度実施計画の進捗状況について

二又副学長から、資料1により、第4期中期目標期間における令和5年度実施計画の進捗状況について報告があった。塩尻理事から、計画番号18については令和5年度までの進捗率は低くなっているが、令和6年度から2種類のプログラムの実施を予定しており、計画が達成できるよう対応する旨の補足説明があった。川田理事から、計画番号23については令和5年度末時点で85%程度の達成率であるが、前年度に比べて全体で論文数が200本程度減っていること、計画番号24についても85%程度の達成率であり、超領域分野への教員の登録が増えれば論文数の増加が見込める旨の補足説明があった。

委員からの意見

- ・社会人向けプログラムについて、企業や自治体の研修制度で活用してもらうなどのPRに努めなければ、目標の達成は難しいのではないかと。また、年度の開始時期に合わせて3月までに広報活動を行うことが効率的ではないかと。
→静岡市との包括連携協定に基づき、静岡市公式LINEや企業のメーリングリストなどを通じて、プログラムの広報を行う。効率的な広報についても、参加者が増やせるよう検討を行いたい。
- ・プログラムの履修によって、受講者のスキルアップや企業評価の向上に繋がるような仕組みにしなければ、企業の研修制度では活用されにくい。
- ・論文の引用数について、オープンアクセスにすれば引用数は上昇するが、費用も多く掛かるので、若手を中心に支援が必要である。
→学内にオープンアクセス経費の補助が受けられる制度がある。
- ・教員が研究に専念する環境・時間の確保のため、委員会の見直し、権限の委譲を

進めていく必要があり、事務が主体的に決めるような体制の構築と意識改革を全学的に取り組んでいきたい。

2. 令和5年度国際交流基金事業報告について

近藤副学長から、資料2により、令和5年度国際交流基金の事業実施状況について報告があった。

3. 監事候補者の推薦について

依藤総務部次長から、資料3及び別添資料により、次期監事候補者を文部科学大臣へ推薦することについて報告があった。

IV その他

1. 教育研究評議会の議により役員会が議決したとする議案について

議長から、資料4により、令和6年度第1回教育研究評議会（令和6年4月17日開催）で承認された以下の議案について報告があり、役員会に関する申合せ（平成20年4月16日制定）により、同日付けで役員会が議決したとすることを確認した。

○国立大学法人静岡大学経営協議会学外委員について

（教育研究評議会議資料3）

○静岡大学光医工学とグリーン科学を基盤とした超領域博士人材育成プログラム規則等の制定及び光医工学超領域分野フェロシップ規則等の廃止について

（教育研究評議会議資料4）

以上